

盛岡市内景気動向調査の概要について（2026年7～9月期）

盛岡商工会議所

【概況】今期は好転超過となったものの、原材料高や人件費等のコスト増、金利上昇が収益を圧迫し、来期見通しは再び悪化超過へ転じるなど先行きへの警戒感が強まっている。

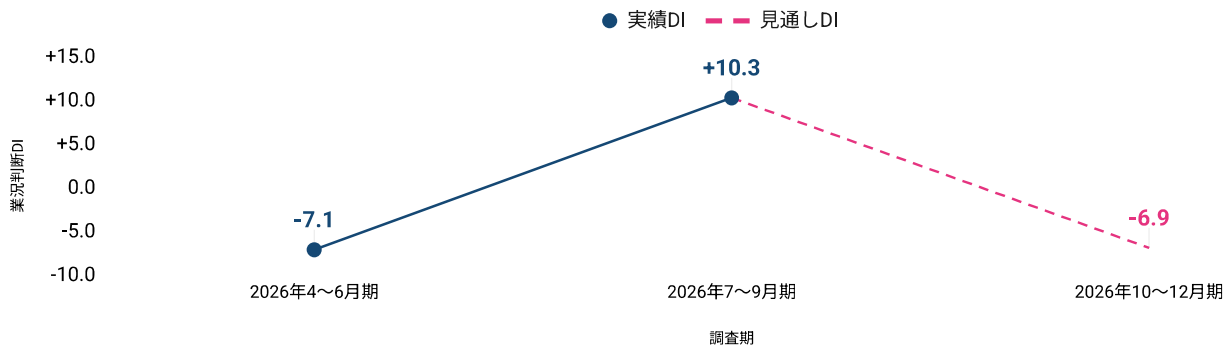
- ・【業況DI動向】今期の業況判断DIは+10.3と好転超過。来期見通しは▲6.9（▲17.2pt）と悪化超過に転じる見込み。
- ・【業種別動向】製造業（+50.0）・建設業（+25.0）・サービス業（+8.3）がプラスの一方、卸売業（0.0）・小売業（▲12.5）と業種間格差がみられる。
- ・【経営課題】「原材料・仕入単価の上昇（18社）」「経費増加（13社）」「人手不足（10社）」「人件費の増加（10社）」に加え、「競争激化（6社）」「ニーズ対応（5社）」が上位。
- ・【企業の声】原材料や仕入価格の高騰・入手難、人手不足、金利上昇による負担増等により、「動いている割に利益が出ない」「先が読みづらい」との苦境の声が多数。

【調査実施要領】			
調査対象企業数	有効回答企業数（入力済）	未回答企業数	回収率
43社	31社	12社	72.1%

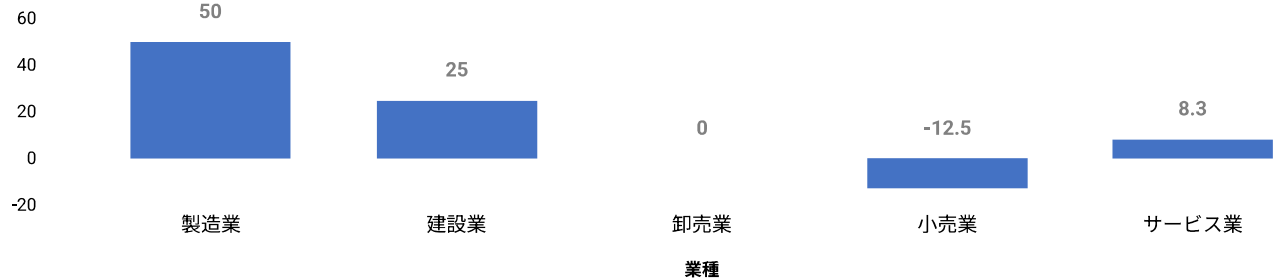
【業況判断DI（今期実績・来期見通し）】					
区分	有効回答数	好転	不変	悪化	業況判断DI
今期（前期比）	29社	27.6%	55.2%	17.2%	+10.3
来期見通し（今期比）	29社	13.8%	65.5%	20.7%	-6.9
変化幅（来期－今期）	-	-13.8%	10.3%	3.4%	-17.2

※業況判断DI＝「好転」割合（％）－「悪化」割合（％）。プラスは好転超過、マイナスは悪化超過を示す。

業況判断DI推移（実績・見通し）



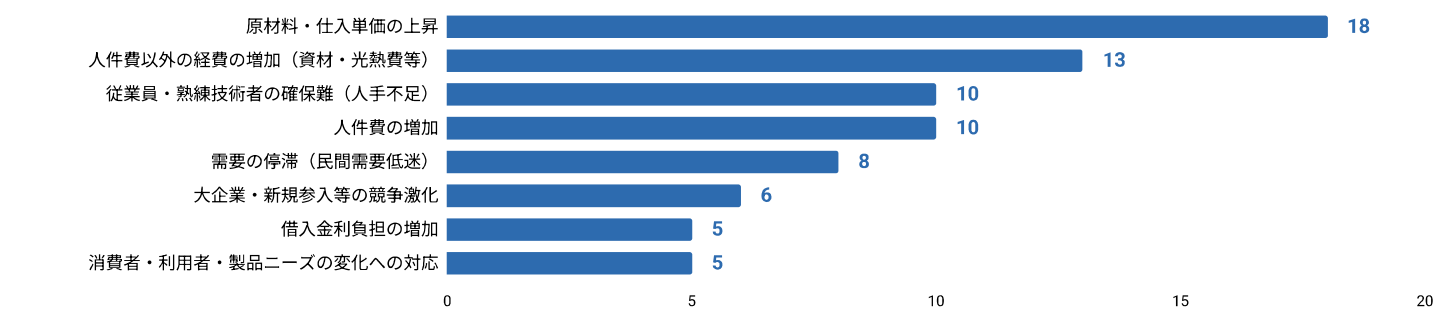
業種別 業況判断DI（今期実績）



【経営上の当面の問題点（上位ランキング）】

順位	経営上の問題点	1位回答	2位回答	3位回答	合計回答数
1	原材料・仕入単価の上昇	7	5	6	18
2	人件費以外の経費の増加（資材・光熱費等）	3	5	5	13
3	従業員・熟練技術者の確保難（人手不足）	5	4	1	10
4	人件費の増加	3	5	2	10
5	需要の停滞（民間需要低迷）	4	3	1	8
6	大企業・新規参入等の競争激化	3	3	0	6
7	借入金利負担の増加	0	1	4	5
8	消費者・利用者・製品ニーズの変化への対応	1	0	4	5

経営上の当面の問題点（上位ランキング）



【企業の景況に関する主な声・定性コメント（業種別抜粋）】	
業種	景況の背景・直面する経営課題に関するコメント
製造業	イラン、ホルムズ海峡封鎖により原材料の価格が大幅に上昇し材料そのものが品薄になっています。通常よりも在庫を増していますが、金利の上昇もあり動いている割には、利益が出ないです。
建設業	ナフサショックが直撃し、材料仕入れ、資金繰りいずれも厳しい状況である。政府の対応策もすぐに使えるものではなく、非常に厳しい。
卸売業	中東情勢の影響で商品の確保が大変だった。今は仕入上昇/販売単価上昇で売上単価はあがるが、今後は低下すると思われる。
小売業	米価の乱高下により大きな影響を受けている。来年4月から食品の消費税率が変わることが、在庫の米の販売価格や利益にどのように影響するか不安に思っている。
小売業	天候不順で売上が伸びず、農産物の豊作による利益が相殺された。運転資金の調達に加え、本業の収穫期に収益を最大化できるよう、売り逃しのない持続的な販路を早急に再構築することが急務である。
サービス業	材料費上昇に合わせて価格転嫁を進めながら、適正価格化を推し進めて、利益（収益）の向上を目指しています。